

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構、
(独)産業技術総合研究所、(一財)日本自動車研究所、
(一財)日本品質保証機構、(一社)日本ロボット工業会 同時発表

平成 26 年 2 月 5 日

生活支援ロボットの国際安全規格 ISO13482 が発行されました

この度、生活支援ロボットの国際安全規格 ISO13482 が発行されました。この規格化は、経済産業省と(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構が実施する「生活支援ロボット実用化プロジェクト」で得られた生活支援ロボットの安全性に関する成果を国際標準化機構(ISO)に提案し、採用されたものです。

1. 背景

我が国では、高齢化の進行により、高齢者の介護などの生活支援分野でのロボット技術の活用に強い期待が寄せられています。一方、生活支援ロボットは人との接触度が高くなるため、本格的な導入に向けては、対人安全の技術や基準・ルール整備と、安全対策を証明する制度の必要性が指摘されていました。

そのため、経済産業省と(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構は、平成 21 年度から、「生活支援ロボット実用化プロジェクト」を実施し、生活支援ロボットの安全に関するデータの収集・分析、対人安全性基準、安全検証試験方法及び安全認証手法の確立に向けた取組を行ってきました。

2. プロジェクトの成果を活用した国際安全規格 ISO13482 の発行

経済産業省と(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構が実施する「生活支援ロボット実用化プロジェクト」では、日本国内で実際に開発されている生活支援ロボットを 3 つの代表的なタイプ(「移動型」「搭乗型」「装着型」)に分類しており、国際安全規格の検討にあたっては、本プロジェクトのメンバーが主導的に 3 分類を念頭においた規格を提案し、各国と活発な議論を行ってきました。

その結果、日本の提案が採用される形で、生活支援ロボットの国際安全規格 ISO13482 が発行されました。

これにより、生活支援ロボットは国際安全規格に基づいた安全認証を取得することができるようになります。今後、生活支援ロボットの販売や導入の際、安全認証を取得していることが適切な安全対策の証明となることが期待されます。



移動型



装着型



搭乗型

(参考)生活支援ロボットの安全認証に関連する機関の動向

これまで、(一財)日本品質保証機構では、「生活支援ロボット実用化プロジェクト」の成果を用いて安全認証手法を確立し、既に今回発行された国際安全規格の原案 (ISO/DIS 13482) の段階から安全認証を開始しており、昨年 2 月には、CYBERDYNE 株式会社の「ロボツスーツ HAL®福祉用」の安全認証を行っています。今般の ISO13482 の発行を受けて、これに対応した安全認証を開始することとしています。

「ロボツスーツHAL®福祉用」の認証取得(平成 25 年 2 月 27 日公表)

<http://www.meti.go.jp/press/2012/02/20130227002/20130227002.html>

また、(独)産業技術総合研究所、(一財)日本自動車研究所等では「生活支援ロボット安全検証センター」(茨城県つくば市)を中心として、生活支援ロボットの安全検証試験方法を開発しており、今後、同センターにおいて一般企業がISO13482 に対応した安全検証試験を行うことが可能となる予定です。

生活支援ロボット安全検証センター

<http://robotsafety.jp/wordpress/>

(参考)ISO13482 ホームページ

http://www.iso.org/iso/home/store/catalogue_tc/catalogue_detail.htm?csnumber=53820

(本発表資料のお問い合わせ先)

製造産業局 産業機械課長 須藤

担当者: 北島、川邊

電話:03-3501-1511(内線 3821)

03-3501-1691(直通)

産業技術環境局 基準認証国際室長 紺野

担当者: 猿橋

電話:03-3501-1511(内線 3431)

:03-3501-9471(直通)

産業技術環境局 情報電気標準化推進室長 辻本

担当者: 福井

電話:03-3501-1511(内線 3428)

03-3501-9287(直通)